

道徳教育における評価

評価の意義と留意点

評価の必要性	<p>Q 道徳教育における評価は、どのように考えればよいのですか。</p> <p>生きる力の中核となる豊かな人間性や社会性とは、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力であり、それは道徳性を意味するものであると言えます。道徳教育は、その道徳性を計画的、発展的に育成するものであり、新しい教育課程の趣旨を実現する極めて重要な役割を担っていると言えます。また、道徳教育の一層の充実が図られるためには、児童生徒の道徳性の把握や指導計画等の改善に役立てるための評価の在り方について全教職員が一丸となって取り組むことが必要です。</p>
評価の意義	<p>道徳教育における評価は、教員が児童生徒の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気づけることが第一の役割です。また、各教科等の評価と同様、児童生徒にとっては自己の変容や成長を自覚するためのものであり、教員にとっては、指導計画や指導方法を改善するための契機になるものでなくてはなりません。</p> <p>道徳教育の評価は、これまで指導計画や指導方法に重点が置かれ、児童生徒の道徳性の評価は必ずしも十分に行われてきませんでした。「道徳性のように内面に関わることは評価できない。」あるいは、「道徳の時間の評価を行えば、それが道徳教育の評価である。」という誤解から生じたものです。今後は、これまで以上に児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い、学習意欲の向上に生かすようにすることが求められています。</p>
評価の留意点	<p>道徳教育における評価においては、次のような点に留意することが必要です。</p> <ol style="list-style-type: none">①道徳性は客観的な理解の対象ではなく、教師と児童生徒との温かな人格的な触れ合いやカウンセリングマインドに基づいて、共感的に理解されるべきものである。②道徳性は、人格の全体に関わるものであり、いくつかの調査の結果を過信して、児童生徒の道徳性を客観的に理解し評価しえたかのように思うことは慎まねばならない。③児童生徒は誰もが、よりよく生きたいと思っている。また、よりよく生きる力をもっているという信念と彼らの成長を信じ願う姿勢をもっていることが必要である。④児童生徒と教師との人間関係や児童生徒相互の望ましい人間関係の中でこそ道徳教育が展開され、評価がなされなければならない。⑤児童生徒の一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を積極的に評価する個人内評価を重視する必要がある。

道徳性の理解と評価

道徳性とは、道徳性の諸様相の評価とは

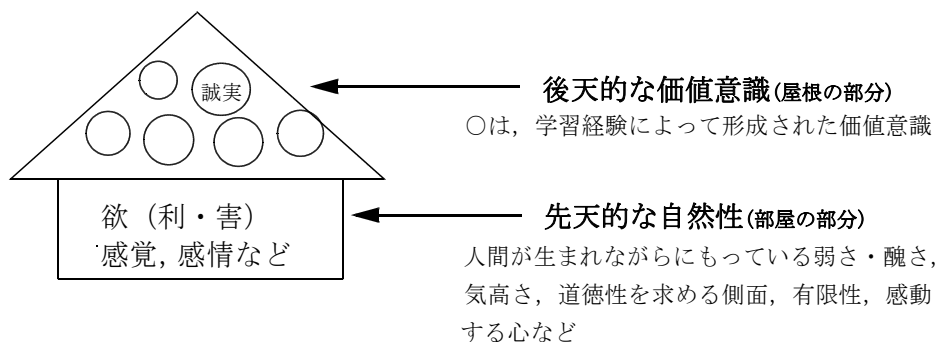
Q 道徳性の理解と評価をどのように考えればよいのですか。

道徳性の構造

「構造化方式」
(P6参照)

道徳性の評価

諸様相の評価



(1) 道徳性とは

人間が先天的にもっている自然性の上に、どのような価値意識が備わり、全体としてどのように道徳性が形成されているのかを共感的に理解することが道徳性の評価です。道徳性は、日常生活の様々な場面において、行動、言葉、表情、しぐさなどに現れます。それらを、温かく、また、注意深く見守り、道徳的諸価値が一人一人の内面でどのように統合されているかを見取ります。

また、学習指導要領では、「道徳性とは、人間としての本来の在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。それはまた、人間らしいよさであり、道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものである。」と説明しています。道徳性の理解と評価に当たっては、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度及び道徳的習慣について分析することが多いといえます。

(2) 道徳性の諸様相の評価

道徳性を分析的に評価しようとする場合の観点は、次のとおりである。

①道徳的心情

道徳的に望ましい感じ方、考え方や行為に対して、あるいは、道徳的に望ましくない感じ方、考え方や行為に対して、児童生徒がどのような感情をもっているかを把握する。

②道徳的判断力

道徳的諸価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある場面で、児童生徒がどのように思考し判断するかを把握する。

③道徳的実践意欲と態度

道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるかを把握する。

④道徳的習慣

基本的な生活習慣をどの程度身につけているかを把握する。

教育活動全体をとおしておこなう道徳性の評価とその観点 1

各教科における評価

各教科の時間 における評価

Q 教育活動全体をとおしての道徳性の評価とは、どのようにおこなえばよいのですか。

各教科の指導においては、その教科の「関心・意欲・態度」と関連づけて道徳性を評価します。つまり、「指導要録の改善通知」に示された「各教科の評価の観点及びその趣旨」の「関心・意欲・態度」に即して評価することになります。ここで留意すべき点は、教科固有の知識や技能を身につけることへの「関心・意欲・態度」ではなく、その教科が育てようとする人間になることへの「関心・意欲・態度」を見取ろうとしているのです。

また、毎時間、全ての子供について記録をとる必要はありません。評価規準に照らして、目立った進歩やよさが認められた場合のみ記録しておくことが現実的な方法です。

評価基準

教科	評価規準
小学校 国語	・国語に対する関心をもち、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。
小学校 社会科	・社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べることとおして、社会の一員として自覚をもって責任を果たそうとする。
小学校 算数	・数理的な事象に関心をもつとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、日常の事象の考察に進んで生かそうとする。
小学校 理科	・自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。
小学校 生活	・身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらと関わり、楽しく学習や生活をしようとする。
小学校 音楽	・音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。
小学校 図画工作	・自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の創造活動を楽しみ、作りだす喜びを味わおうとする。
小学校 家庭	・衣食住や家族の生活について関心をもち、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。
小学校 体育	・進んで楽しく運動をしようとする。また、身近の生活における健康・安全に関心をもち、進んで学習に取り組もうとする。

教育活動全体をとおしておこなう道徳性の評価とその観点2

特別活動，総合的な学習の時間，家庭生活における評価

特別活動における評価

特別活動においては，道徳的実践についての「関心・意欲・態度」が道徳性に深く関わっています。評価の内容と評価規準は，次のとおりです。

内 容	評 価 規 準
小学校 学級活動	・学級生活の向上やよりよい生活を目指し，諸問題の解決に努めている。
小学校 児童会活動	・学校生活の向上や他のためを考え，自己の役割を果たしている。
小学校 クラブ活動	・自己の興味・関心を意欲的に追求し，他と協力しながら創意工夫して活動している。
小学校 学校行事	・全校や学年の一員としての自覚をもち，集団における自己の役割を考え，望ましい行動をしている。

総合的な学習の時間 における評価

総合的な学習の時間のねらいは，体験的な活動や問題解決的な活動をとおして「自己の生き方」を考えることです。つまり，体験による道徳教育の時間であると言っても過言ではありません。したがって，道徳的価値との関わりにおいて自己の生活や体験を振り返り，自らの考えや意見をもつこと，自他のよさに気付くこと，未来に向けて夢や希望，目標や願いをもつことができたかどうかを見取ることになります。

総合的な学習の時間においては，特に自己評価が重視されるため，自己評価カードの記述やシェアリングにおける発言などを中心に評価資料を収集することが大切です。

家庭生活における評価

家庭・地域と連携した道徳教育の充実は今日的な課題であり，保護者からの情報も重要な評価資料であると考えたいです。そのためには，日頃から道徳授業の様子や指導重点についての説明などを心がけ，価値意識や行為の変容について情報収集を行うことが必要です。

〈保護者へのアンケート例〉

〈保護者の皆様へ〉

今学期は，道徳教育の重点として「基本的な生活習慣の確立」「生命尊重」「友情・信頼」等を掲げ，指導に取り組んできました。お子さんの生活ぶりをご覧になって，どのような成長や変化が見られたかお聞かせ下さい。

1 成長したと思われる点

()

2 課題と思われる点

()

3 その他，意見，要望等がありましたらお聞かせ下さい。

()

教育活動全体をとおしておこなう道徳性の評価とその観点 3

指導要録の「行動の記録」に即した評価

「行動の記録」の評価

指導要録の「行動の記録」は、道徳教育との関連が深いので、道徳教育の評価と併せて考えることが大切です。指導要録に示された10項目とその趣旨に沿って日常的に「よさを見つける評価」を行うことが基本であり、そのためには、教職員間で具体的な観察の方法や観点について共通理解を図ることが必要です。また、総合的に評価すべき人柄や特性、行動の記録欄での分析的な評価では捉えにくい長所、「○」は付けられないが部分的に認められる長所などは「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記述することになるので、そのための記録を残しておくことも必要です。

「行動の記録」では、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全般にわたって認められる児童生徒の行動について、各項目ごとにその学年別の趣旨に照らして「十分満足できる状態」にあると判断される場合には、「○」を記入することになっています。したがって、評価に当たっては趣旨を十分に理解し、何をもって「十分満足できる状態」とするのか、具体的な評価規準を作成する必要があります。

また、「行動の記録」ではあるが、外に現れた行動ばかりでなく、その裏側にある心情や判断に常に目を向けていくことが道徳教育の評価として重要な視点であるともいえます。

評価基準例

＜小学校3・4年生における具体的な評価規準例＞

項 目	具 体 的 な 評 価 規 準
基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・物や時間を有効に使う。 ・礼儀正しく生活できる。 ・安全への配慮ができる。
健康・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体や健康について関心がある。 ・運動に親しむ習慣が身に付いている。
自主・自律	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの目標をもち、ねばり強くやり通す。
責任感	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動に責任がもてる。 ・与えられた 役割を最期までやり通している。
創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの方法を工夫しながら物事に取り組んでいる。
思いやり・協力	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや立場を理解し、協力し合うことができる。
生命尊重・自然愛護	<ul style="list-style-type: none"> ・生命や自然のすばらしさに感動できる。 ・自他の生命を大切にしている。
勤労・奉仕	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの大切さを知り、進んで働いている。
公正・公平	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪を判断しながら、誰に対しても同じように接している。
公共心・公德心	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会のことを考え、きまりやマナーを守って行動している。

いろいろな評価の方法

共感的な理解と多面的にとらえることが大切

<p>観察による方法</p>	<p>道徳教育における評価は、生徒との心の触れ合いを通じた共感的な理解でなくてはならない、ということの基本とし、多面的にとらえることが重要です。</p>
<p>面接による方法</p>	<p>(1) 観察による方法 児童生徒と一緒に活動しながら観察する方法と外側から観察する方法があります。いずれにしても観察の視点を定めたチェックリストと自由記述欄を合わせた記録票を作成し資料収集を行うことが必要です。意図的に指名したり、話しかけたりして様子を見ることも観察法の一つです。</p> <p>(2) 面接による方法 児童生徒と相対して話し合うことにより、道徳的な感じ方や考え方などを評価しようとする方法です。信頼関係を築いておくことはもとより、カウンセリングマインドや面接方法についての理解も必要です。面接場面においては、観察記録に記述されたよさに関わって、その時の判断や心情について話を聞いたり、今、大切にしていることや悩みなどについて共感的に聞いたりすることが大切です。</p>
<p>質問紙などによる方法</p>	<p>(3) 質問紙などによる方法 あらかじめ教師側で作成した質問項目に答えてもらうことにより、児童生徒の道徳性の実態を把握したり、自己理解を深めてもらったりするものです。また、指導の前後に行うことにより目標の達成状況を把握したり、指導法の改善を図ったりすることもできます。</p> <p>また、設問は、問題場面検査のように、ある道徳的葛藤場面を設定し、そこでの判断や心情を問うもの、自分のよさや頑張りを自己評価するものなどが考えられます。何のために、どのような資料を収集しようとしているのかを明らかにするとともに、結果を踏まえた適切な指導をしていくことが大切です。</p>
<p>作文や日記、ノート、ワークシートなどによる方法</p>	<p>(4) 作文や日記、ノート、ワークシートなどによる方法 心のノート、日記や作文などには児童生徒の感じ方やものの見方などが直接的に記述されており、道徳の評価資料として貴重なものです。しかし、それだけに十分な配慮が求められるものです。まず、文字面だけから安易に道徳的な評価を下さないことです。文字の裏にある込められた思いを共感的に感じ取る姿勢が必要です。また、日記や心のノートは、本来、提出して評価を受けるような性格のものではないので、プライバシー保護に対する慎重な扱いが必要です。</p>
<p>その他の方法</p>	<p>ワークシートは、目的に応じて授業者が作成するものであり、設問や形式を工夫することにより有効な資料となります。しかし、部分的には日記等に準ずる配慮が必要であり、慎重に扱いたいものです。</p> <p>(5) その他の方法 特に配慮を要する児童生徒については、事例研究法により指導と評価の一体化に一層心がけることが必要です。その際、学年所属教員や教育相談担当教員の協力を得て共同指導体制がとれるようにしましょう。そのほか、道徳性診断検査などの標準検査を活用することも考えられます。目的に応じた方法を活用すると共に、検査結果を過信して児童生徒の道徳性を客観的に評価したかのような思い込みをしないよう留意しましょう。</p>

全体計画の評価

道徳教育の全体計画は、学校の教育活動全体をとおして、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示したものであり、基本方針や指導重点、道徳の時間と他の教育活動との関連、家庭や地域との連携、日常指導の視点などから構成されています。道徳教育の充実や全教職員による一貫した指導の推進のために、道徳教育の評価や学校評価の一環として全体計画の見直しが行われなくてはなりません。

〈全体計画の評価例〉

	評価の観点	STEP 1	STEP 2	STEP 3
基本方針・指導重点	教育関係法規や地域の実態、時代の要請、県の指導重点などを踏まえて方針や重点を設定しているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 設定しているが前年度のものをそのまま使っている	<input type="checkbox"/> 年度末、あるいは年度初めに全職員で検討し設定した
	児童生徒のよさや課題を踏まえて計画を作成したか。	<input type="checkbox"/> よさや課題については特に検討していない	<input type="checkbox"/> 検討はしたが、全体計画には具体化されていない	<input type="checkbox"/> 全職員で検討し、全体計画の作成に生かしている
	学校や学年の重点目標が設定されているか。	<input type="checkbox"/> 重点項目は特に設定していない	<input type="checkbox"/> 学校の重点目標は設定されている	<input type="checkbox"/> 学校、学年の重点目標が設定されている
指導体制・指導方法	校長を中心とした共同指導体制の方針や方法が示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討されていない	<input type="checkbox"/> 全体計画には示していないが必要に応じて共同指導を行うことが確認されている	<input type="checkbox"/> 共同指導体制について方針や方法が全体計画に示されている
	学校や地域の特色を生かした体験活動の方針が示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討されていない	<input type="checkbox"/> 方針は確認されたが、全体計画には示されていない	<input type="checkbox"/> 全職員で確認し、全体計画に明記されている
各教科等との関連	各教科等における道徳教育の方針は明らかにされているか。	<input type="checkbox"/> 各教科指導における道徳教育については検討されていない <input type="checkbox"/> 検討はしたが全体計画への記述はない	<input type="checkbox"/> 各教科等における道徳教育の方針が全体計画に示されているが形式的なものである	<input type="checkbox"/> 指導要領等を検討し相互の関連を明らかにした上で全体計画に位置づけている
家庭・地域との連携	家庭・地域との協体制づくりや広報活動など連携の具体的な方法が示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討していない	<input type="checkbox"/> 検討はしたが具体的な方法などについては記載していない	<input type="checkbox"/> 全職員で確認し、方針や具体的な方法等が全体計画に示されている
	近隣の保育園、幼稚園、小・中学校との交流や連携が図られているか。	<input type="checkbox"/> 必要を感じない <input type="checkbox"/> 必要とは思いますが、検討はされていない	<input type="checkbox"/> 必要性を認識し検討は行ったが、具体的な方法を示すまでにはいたっていない	<input type="checkbox"/> 交流や連携の方法を検討し、全体計画に示している
評価計画・研修計画	道徳教育に関わる評価の時期や方法、組織などが明らかにされているか。	<input type="checkbox"/> 評価については、特に計画されていない	<input type="checkbox"/> 評価計画について話題にはなるが、全体計画への位置づけはされていない	<input type="checkbox"/> 評価の時期、方法、組織の概要などについて全体計画に示されている
	道徳教育の意義や方法等について研修する機会が位置づけられているか。	<input type="checkbox"/> 検討されていない	<input type="checkbox"/> 研究授業等に合わせて随時行うことを考えている	<input type="checkbox"/> 校内研修計画または道徳の全体計画に位置づけられている
環境整備	学級経営を中心とした日常指導の計画や人的・物的環境の整備について示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討されていない	<input type="checkbox"/> 検討はしたが、全体計画には示されていない	<input type="checkbox"/> 方針や視点など概要は全体計画に示されている
心のノート	心のノート活用についての方針が示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討されていない	<input type="checkbox"/> 方針は確認されたが、全体計画には示されていない	<input type="checkbox"/> 活用についての基本方針が、全体計画に示されている

*全体計画は、紙面の都合で詳細まで記述できないことも考えられます。補助資料を作成して具体策を示している学校については、それも全体計画の一部と考えて評価してください。

年間指導計画の評価

年間指導計画は、道徳の時間の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童生徒の発達に即して計画的、発展的に展開されるように組織された指導計画です。したがって、何年もの間、見直しがなされないまま継続的に使用されたり、また、個人的な判断で安易に変更されたりするようなものではない。全教職員の共通理解のもと、繰り返し評価を行うことにより、指導の時期、ねらい、資料、指導方法などが改善され、道徳教育が一層効果的に展開されるよう努めなければなりません。

以下に、年間指導計画の評価を行うためのチェックリスト例を示します。

〈年間指導計画の評価例〉

	評価の観点	STEP 1	STEP 2	STEP 3
時期・時間	指導の時期は、学校行事や各教科等の内容に合わせて適切に設定されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 指導計画には示していないが随時対応するようにしている	<input type="checkbox"/> 年間指導計画作成の段階で検討し、関連づけた配当をしている
	年間授業時数を確保する工夫がなされているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 時数確保は考慮しているが年間指導計画の作成に当たっては特別な工夫はしていない	<input type="checkbox"/> 学校行事や休業日などと照らし合わせて検討し時数が確保できる計画にしている
	一単位時間の授業時間や特定の時期に集中して指導するなどの弾力的な扱いが工夫されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 年間指導計画には示していないが、必要に応じて弾力的に扱うことが確認されている	<input type="checkbox"/> 年間指導計画に具体化されている
主題・ねらい	主題名は児童生徒の側から見た学習テーマの形で設定されているか。	<input type="checkbox"/> 主題名は示していない	<input type="checkbox"/> 教師用指導書の主題名や資料名をそのまま転記している	<input type="checkbox"/> 資料の性格や児童生徒の実態を踏まえて、適切に設定している
	ねらいは、児童生徒の実態や資料の性格に合わせて適切に設定されているか。	<input type="checkbox"/> ねらいは示していない	<input type="checkbox"/> 教師用指導書のねらいをそのまま転記している	<input type="checkbox"/> 資料の性格や児童生徒の実態を踏まえて、適切に設定している
重点化	学校や学年の重点目標が達成されるよう内容項目が配置されているか。	<input type="checkbox"/> 重点目標を踏まえた内容の配列は特に行ってない	<input type="checkbox"/> 重点目標に関する内容が多くなるように配列している	<input type="checkbox"/> 取り上げる内容項目の数だけでなくその広がりや深まりも考慮して配当している
地域との連携	家庭・地域との連携や地域人材の活用が具体化されているか。	<input type="checkbox"/> 連携や人材活用は、特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 必要に応じ、随時取り入れていくことが確認されているが年間指導計画には具体化されていない	<input type="checkbox"/> 連携や地域人材の活用が年間指導計画に具体的に示されている
指導体制	TT の工夫や校長、教頭の参加など共同指導体制が具体化されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討されていない	<input type="checkbox"/> 必要に応じ、随時取り入れていくことが確認されているが年間指導計画には具体化されていない	<input type="checkbox"/> 共同指導の概要が分かる程度に具体化されている
資料・活動・指導法	資料は心が揺さぶられたり、深く考えさせられたりする内容であるか。	<input type="checkbox"/> すぐに差し替えが必要な資料である	<input type="checkbox"/> より良いものがあつたら差し替えてもよい資料である	<input type="checkbox"/> 是非残したい、優れた資料である
	体験活動を重視した指導計画になっているか。	<input type="checkbox"/> 体験活動の重視は、ほとんど考慮されていない	<input type="checkbox"/> 一部取り入れられているが、十分ではない	<input type="checkbox"/> 体験活動が十分に取り入れられた年間指導計画である
	魅力ある道徳授業になるよう多様な資料や指導方法がとられているか。	<input type="checkbox"/> 多様な資料や指導方法については、ほとんど考慮されていない	<input type="checkbox"/> 資料や指導方法に一部工夫が見られるが、十分ではない	<input type="checkbox"/> 読み物資料だけでなく、多様な資料が準備され、指導方法についても教材に応じた様々な工夫をしている
	指導案や資料の保存、共有のための方法が検討されているか。	<input type="checkbox"/> 特に検討されていない	<input type="checkbox"/> 検討はしたが、指導計画には明記されていない	<input type="checkbox"/> 資料の保存や共有の方法について、年間指導計画に示されている
心のノート	心のノートの活用場面や活用方法について示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 検討はしたが、指導計画には示されていない	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、活用計画が示されている <input type="checkbox"/> 活用の事実を記述する欄が設けられている

学級における指導計画の評価

学校において作成される全体計画は、全教職員の参加と協力のもとに作成されるが、道徳の時間を中心に展開される指導の基盤は学級にあります。学級担任は、全体計画をもとに、児童生徒の実態や願いを踏まえて具体的な指導方針や指導計画を作成します。これが、学級における指導計画です。

学級における指導計画の評価とは、学級の児童生徒がどのように変容し成長したのか、課題はどこにあるのかなどをもとに指導計画を見直し、次の指導に生かせる指導計画に改善していく手続きです。

〈学級における指導計画の評価例〉

	評価の観点	STEP 1	STEP 2	STEP 3
実態把握	学級における児童生徒の道徳性の実態が把握されているか。	<input type="checkbox"/> 把握していない	<input type="checkbox"/> 日常生活の観察によっておよそ把握している	<input type="checkbox"/> 計画的な観察記録、アンケート、検査等により把握している
	児童生徒の願いや保護者の願いは把握されているか。	<input type="checkbox"/> 把握していない	<input type="checkbox"/> 日常の会話等によりおよそ把握している	<input type="checkbox"/> 面接、懇談会、アンケート調査等により把握している
目標の重点化	全体計画を踏まえて、学級における道徳教育の基本方針が示されているか。	<input type="checkbox"/> 基本方針は示していない	<input type="checkbox"/> 基本方針は示しているが、全体計画との関連は意識していない	<input type="checkbox"/> 全体計画を踏まえ、基本方針を設定している
	全体計画を踏まえて学級の重点目標が設定されているか。	<input type="checkbox"/> 重点目標は設定していない	<input type="checkbox"/> 重点目標は設定したが、全体計画との関連は考慮していない	<input type="checkbox"/> 全体計画を踏まえ、重点目標を設定している
家庭・地域等との連携	他の学級や学年、家庭や地域との連携に関わる内容と方法が具体的に示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 必要に応じ、連携を図っていくつもりだが、指導計画には具体化されていない	<input type="checkbox"/> 指導計画に具体的に示されている
	指導計画は、保護者や児童生徒にも分かりやすく作成されているか。	<input type="checkbox"/> 児童生徒や保護者が見ることは想定していないので考慮していない	<input type="checkbox"/> 児童生徒や保護者に見てもらうことも想定して作成したが、分かりやすいものではない	<input type="checkbox"/> 児童生徒や保護者が見ることを想定し、分かりやすく作成してある
各教科・学級経営等における指導	教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を築く方策が具体的に示されているか。	<input type="checkbox"/> 具体的な方策は考えていない	<input type="checkbox"/> 方策はいくつか考えているが指導計画には具体的に示していない	<input type="checkbox"/> 指導計画に具体的な方策を示している
	学級における教育環境の整備について具体的に記述されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 環境整備について、いくつか項目を考えてはいるが指導計画への記述はない	<input type="checkbox"/> 指導計画に具体的な方策を示している
	基本的な生活習慣に関する指導について具体的に示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 指導内容や方法を考えてはいるが指導計画には示していない	<input type="checkbox"/> 指導計画に具体的な方策を示している
	各教科等における道徳教育の概要が示されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 概要を把握してはいるが、指導計画には示していない	<input type="checkbox"/> 各教科等における道徳教育の概要や心のノートの活用について明記されている
指導体制	各教科等の指導において豊かな体験活動が位置づけられているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 体験活動を取り入れてはいるが十分ではない	<input type="checkbox"/> 教育活動全般にわたって、十分な体験活動が位置づけられている
	TTの工夫や校長、教頭の参加、地域人材の活用など共同指導体制について具体化されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 必要に応じ、随時取り入れていくつもりだが、指導計画には具体化されていない	<input type="checkbox"/> 共同指導の概要が分かる程度に具体化されている
評価	児童生徒一人一人のよさに気づき、認め、それを生かす場や機会が工夫されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> いくつかアイデアをもってはいるが、指導計画には示していない	<input type="checkbox"/> いくつかの場や機会が、指導計画に具体的に示されている
	児童生徒の道徳性を評価する多面的、継続的な方法が工夫されているか。	<input type="checkbox"/> 特に考慮していない	<input type="checkbox"/> 方法を工夫してはいるが、十分ではない <input type="checkbox"/> 指導計画に明記されていない	<input type="checkbox"/> 多面的、継続的に評価する方法を工夫し、指導計画に明記している

道徳の時間の指導に関する評価 1

指導過程、指導方法に関する評価

道徳の時間の評価は、その指導により児童生徒の道徳性がどのように変容したかを把握することを通して、指導過程や指導方法を検討し、その改善に役立てようとするものです。道徳の時間の指導は、児童生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は容易ではありません。また、一時間の指導による児童生徒の変容は、ごくわずかです。したがって、道徳の時間の評価は、児童生徒のわずかな「心の動き」、「考え方の変化」、「気付き」などを、どのようにして見取っていくかということがポイントとなります。

指導過程は、児童生徒の多様な心の動きを引き出し、ねらいとする価値と関わって自己の内面と対話できていたかどうかによって評価することになります。言い換えると、児童生徒一人一人が自分の問題として捉え、考えを深めていけるような柔軟な指導過程であったかどうかということです。

また、指導方法に関する評価では、子供たちの実態とねらいに即した適切な指導方法がとられていたかどうか問われます。以下に、指導過程と指導方法に関する評価方法例を示します。

〈本時の指導過程や指導方法に関する評価例〉

	評価の観点	STEP 1	STEP 2	STEP 3
指導案・授業展開	本時のねらいと価値の自覚への道筋は明確に示されているか。	<input type="checkbox"/> 誘導的で児童生徒の意識の流れに沿っていない	<input type="checkbox"/> 部分的にはうまくいっているが修正を要するところもある	<input type="checkbox"/> 児童生徒の意識の流れに沿って無理なく価値の自覚ができる道筋になっている
	資料は、心が揺さぶられたり、考えを深めたりできるようなものであるか。	<input type="checkbox"/> 心の揺れや自己の振り返りができない不適切な資料である	<input type="checkbox"/> 心の揺れを引き起こしたり、自己の振り返りを促せる部分もあるが全体的には効果的な資料とは言えない	<input type="checkbox"/> 心が揺さぶられ、自己の内面を見つめたり、これまでの自分を振り返ったりできる有効な資料である
	発問は、価値の自覚を深める適切な構成になっているか。	<input type="checkbox"/> 資料のあらすじの把握や、価値の理解に終始する発問のみである	<input type="checkbox"/> 価値の理解、人間理解、価値への憧れ等にいたる発問が部分的に見られるが構成面では工夫が必要である	<input type="checkbox"/> 価値の理解、人間理解、価値への憧れ等にいたる発問が効果的に配置されている
指導方法	児童生徒の発言に耳を傾け、その背後にある気持ちを受け止めようとしているか。	<input type="checkbox"/> 担任は、児童生徒の発言を機械的に聞いている印象がある	<input type="checkbox"/> 担任は、児童生徒の発言を大切に受け入れているが、その背後にある気持ちを受け止めようとする点で十分ではない	<input type="checkbox"/> 担任は、児童生徒の発言を大切に受け止め、その背後にある気持ちを理解しようとしている
	担任自身も心を開き、心の触れ合いのある授業になっているか。	<input type="checkbox"/> 担任は児童生徒の側への働きかけに終始し、心を開く場面が見られない	<input type="checkbox"/> 担任は、児童生徒の発言を十分に引き出しているが、心の触れ合いまでにはいたっていない	<input type="checkbox"/> 児童生徒と担任とのやりとりに、心の触れ合いが感じられる
	導入段階での指導は、学習への興味を高め、価値への方向付けを行う上で有効な方法であったか。	<input type="checkbox"/> 意欲付け、価値への方向付けとも不十分であり、改善を要する	<input type="checkbox"/> 意欲付け、価値への方向付けがおおむね達成されたが、十分とは言えない	<input type="checkbox"/> 導入段階での指導により、意欲付けと価値への方向付けが効果的に行われた
心のノート	資料の提示や活用に工夫がなされたか。	<input type="checkbox"/> 準備した資料の提示や活用について工夫が見られなかった	<input type="checkbox"/> 一部に工夫が見られたが、十分とは言えない部分もあり、一層の工夫が必要である	<input type="checkbox"/> 提示方法や活用方法が十分工夫され、効果的な資料活用ができた
	発問は、多様な考え方を引き出したり、心が揺さぶられたりするようなものであったか。	<input type="checkbox"/> あらすじを問うような発問が多くあり、ねらいを達成できるような発問がほとんどできなかった	<input type="checkbox"/> ねらいが達成されるような発問も見られたが、一問一答が多く、多様な考え方が十分に引き出せなかった	<input type="checkbox"/> 多様な考え方を引き出したり、心が揺さぶられたりするような効果的な発問ができた
	ねらいが達成できるような話し合いの工夫がなされたか。	<input type="checkbox"/> ねらいの達成に向けた話し合いの工夫がなされなかった	<input type="checkbox"/> ねらいの達成に向けた話し合いの工夫がなされたが、十分ではなかった	<input type="checkbox"/> ねらいが達成できるような工夫がなされ、効果的な話し合いができた
心のノート	自己の変容や成長を自覚できる振り返りが行われたか。	<input type="checkbox"/> 振り返りが行われていない	<input type="checkbox"/> 振り返りが行われたが、自己の変容や成長を自覚できるまでにはいたっていない	<input type="checkbox"/> 自己の変容や成長が十分に自覚できる振り返りが行われた
	必要に応じて、心のノートが有効に活用されたか。	<input type="checkbox"/> 有効に使える場面があったが、活用されなかった	<input type="checkbox"/> 活用はされたが、効果的ではなかった	<input type="checkbox"/> 効果的に活用された

道徳の時間の指導に関する評価 2

道徳的実践力に関する評価

道徳の時間の目標の達成状況は、道徳的実践力の高まり、あるいは価値の自覚の深まりから評価することになります。1時間の指導だけでは明確な変容が表れないことが多いが、それだけに、わずかな変容や成長が自覚できるよう評価方法を工夫していくことが必要です。

(1) 評価の内容、観点 (何を評価するか)

① 「～しよう、～したい」と思う気持ち (道徳的実践力)

- (ア) 道徳的に望ましい感じ方、考え方、行為に対して、どのような感情をもったか。
- (イ) 道徳的な判断を下す場面で、どのように考え、判断しているか。
- (ウ) 道徳的によりよく生きようとする意志が、どれだけ芽生えているか。

② 道徳的価値の自覚の深まり

- (ア) 道徳的価値の大切さを、どのように理解したか。
- (イ) 共に考え合う過程の中で、どのように自己理解、他者理解を深めたか。
- (ウ) 価値の実現に向け、どのような憧れや意欲をもったか。

(2) 評価の方法

① 授業中の児童生徒の観察記録

道徳的実践力、道徳的価値の自覚の各観点に即して発言、表情、つぶやき等を記録や分析します。毎時間、全ての児童生徒について記録することには無理があるので、抽出児や特に変化が認められた児童生徒について記録します。観察記録票には様々な様式が考えられるが、以下に一例を示します。

〈授業中の児童生徒の観察記録例〉

表 1

No.	氏名	道徳的心情	道徳的判断力	自己理解・他者理解	実践意欲・態度	その他
7	須田	子供を失った母親の言葉に涙を浮かべた		自分の中にある気高い心に気付く	シェアリングにおいて「自分も登場人物のような人間になりたい」と発言	

② 自己評価カード、振り返りカード等による自己評価

道徳的実践力や価値の自覚の深まりについて振り返りが行えるような自己評価カードを作成し、授業の終末部分で自己評価する方法は、一度に全員の資料を収集できる効果的な評価方法です。ただし、どのクラスにおいても豊かな感性を持ちながら文章にうまく表現できない児童生徒がいることを忘れてはいけません。必要に応じて、個別に声をかけ面接法的に資料収集を行うことも必要です。

道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度、価値の自覚の深まりの状況を分析的に自己評価する振り返り項目の例を次に示します。自己評価カードへの記述と授業者による観察記録との突き合わせを行うことにより、多面的な評価が可能となります。

〈道徳の時間における自己評価カード例〉

表 2

- 1 今日の授業で、どのような感動や気持ちの変化がありましたか。(心情)
- 2 授業をとおして、どのような考え方をもちましたか。(判断力)
- 3 今までの自分や、友達の考え方について、どんな発見がありましたか。
(自己理解, 他者理解)
- 4 授業を終えて、自分はどんな人間でありたいと思いましたか。
(実践意欲, 価値への憧れ)

*児童生徒には、() の部分を削除して配布する。

③アンケート調査

本時のねらいに即して自己評価方式のアンケートを作成し、授業の事前と事後で比較することにより評価しようとする方法です。

〈友情についてのアンケート例〉

表 3

1	あなたには、親友と呼べる友達がありますか。 はい いいえ どちらとも言えない
2	よい友人関係を築くためにあなたは相手に何を求めますか。大切だと思う順番に番号を付けてください。 家が近い 趣味が同じ 性格が似ている 親同士仲がよい 勉強ができる やさしい スポーツが得意 自分に厳しいことを言わない けんかが強い その他
3	良い友達をもつことは、なぜ大切だと思いますか。自由に考えを書いてください。

④授業前後の行動観察

授業のねらいに即して観察記録票を作成し、授業の前後で比較する方法があります。短期間に行動の変化が現れることは極めて希であるため、1学期間など比較的長いスパンで観察することが必要です。また、記録をとる際、留意したいことは、行動そのものだけを見るのではなく、その裏にある心情や判断等を見取ろうとしていることを忘れないことです。

したがって、「あの時なぜ～したの?」、「あの時、何が気になっていたのかな?」などの語りかけが必要となります。このような共感的理解は、道德教育の評価に役立つばかりでなく、学校の雰囲気までも変えうるものであると言えます。

⑤心のノートの活用

心のノートには、主体的な道德学習の足跡が記されています。必要に応じ児童生徒の承諾を得た上で、関連ページを見ることにより学習をどのように発展させているのかを知ることができます。

⑥他の教師による評価

授業の観察者やTTのパートナーに評価してもらう機会をもつことも重要です。その際、評価の観点や規準を明確にし、後の指導に役立つ情報を収集することが大切です。

(3) 道德指導案における評価計画の記載

これまで道德指導案における評価計画は、形式的なものになりがちでした。例えば「友情の大切さを理解できたか」、「友達を大切にしようとする心情が育ったか」などのように、評価規準だけを簡潔に示したものが多く、評価方法や評価の時期について具体的な記述はほとんど見られませんでした。

これからの教育においては、指導と評価の一体化が重要な視点といえます。人格の形成に直接的に関与する道德教育においては、適切な児童生徒理解と指導法の改善が特に重要であると言えます。今後は、指導案作成の際、本時の「展開」の後に「評価計画」の項を、次のように構成することをすすめます。つまり、「何について」、「いつ」、「どのような方法で」評価するのかを明確にすることが大切です。

〈評価計画例〉

①道徳的実践力及び価値の自覚の深まりに関する評価

(ア) 事前： 「友情」についてのアンケート調査 (表3)

(イ) 事中： 授業中の児童生徒の観察記録 (表1)、自己評価カード (表2)

(ウ) 事後： 「友情」についてのアンケート調査 (表3)、心のノートの記述 (P42)

②本時の指導過程や指導方法に関する評価 (P63 参照)